

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル演奏会

J.S.Bach *JOHANNES-PASSION* BWV245

指揮・ Chernバロ

三澤 洋史

(新国立劇場桂冠合唱指揮者)

独唱

福音史家 澤武 紀行

イエス 加藤 宏隆

ソプラノ 飯田みち代

アルト 三輪 陽子

テノール 谷口 洋介

バス 初鹿野 剛

ヨハネス・パッション
J.S. Bach BWV245

コンサートマスター 川原千真
ヴィオラ・ダ・ガンバ 羽川恵子
オルガン 内山美穂
管弦楽 浜松バッハ研究会管弦楽団
合唱 浜松バッハ研究会合唱団
豊橋バッハアンサンブル

受難曲

2026年4月18日(土) 14:00 開場 14:30 開演

アクトシティ浜松中ホール

主催 浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル

後援 静岡県 公益財団法人静岡県文化財団 浜松市 公益財団法人浜松市文化振興財団

豊橋市 公益財団法人豊橋文化振興財団 公益財団法人浜松交響楽団

静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社 K-MIX FM Haro!

お問い合わせ 090-5821-5459 (木内・金丸/浜松) 0532-47-0676 (安井/豊橋)

入場料 (全席自由)

一般 3000 円

高校生以下 2000 円

(アクトシティ浜松チケットセンターにて取り扱い)

ヨハネ受難曲は、1724年、ライプツィヒの聖トーマス教会での礼拝のためにヨハン・セバスティアン・バッハが作曲した宗教音楽の傑作。新約聖書「ヨハネによる福音書」に描かれたキリストの受難の物語をもとに、独唱・合唱・管弦楽が一体となってドラマティックに描かれた作品である。イエスが捕らえられ、裁かれ、十字架につけられるまでの出来事を、テノール独唱の福音史家が語り、イエス役やピラト役などが対話を交わし、その合間にソプラノやアルトのアリアが挿入され、信徒の心の祈りや思索が豊かに表現される。合唱は愚かな群衆の叫びや信仰のコラールを担い、怒りと静寂、苦悩と希望が交錯するバッハならではの深い精神性が息づく。同じ題材の「マタイ受難曲」に比べ、「ヨハネ受難曲」はより劇的で緊張感に富み、冒頭と終結の大合唱は圧倒的な荘厳さをもって聴き者を包み込む。音楽と祈りがひとつに溶け合い、神の愛と人間の罪を深く問いかける作品である。

三澤 洋史（みさわ ひろふみ）指揮者・合唱指揮者・作曲家



国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。指揮を山田一雄、ハンス＝マルティン・ラーベンシュタインに師事。1999年から5年間、「バイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年には、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座においてスカラ座合唱団の音楽作りを研修。2001年より2025年3月まで24年間、新国立劇場合唱団首席合唱指揮者を務めた。2025年4月からは新国立劇場桂冠合唱指揮者。2017年、新国立劇場合唱指揮者としての活動が評価され、JASRAC音楽文化賞を受賞。新国立劇場合唱団は、2018年度第31回ミュージック・ベンクループ音楽賞クラシック部門、室内楽合唱部門受賞。愛知祝祭管弦楽団音楽監督として、ワーグナー作曲「ローエングリン」「トリスタンとイゾルデ」「ニーベルングの指環」全4部作、「パルジファル」を上演。「名古屋音楽ベンクループ賞」を受賞。

作曲家として、ミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」、Cantico delle Creature（被造物への賛歌）、Miss pro Pace（平和のためのミサ）などがある。

バッハに傾倒し、東京バロック・スコラーズの音楽監督として、沢山の演奏会を指揮。「モテット集」のCDはレコード芸術で準特選に選ばれた。

2024年7月20日、イタリアのアッシジの聖フランシスコ聖堂にて、自作の宗教曲だけで演奏会を開いた。そのためにアッシジ祝祭合唱団を結成。洗礼名は聖フランシスコ。

著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）、「ちょっとお話ししていいですか」（ドン・ボスコ社）がある。京都ヴェルディ協会理事、日本ワーグナー協会評議員。聖グレゴリオの家、宗教音楽研究所理事。1990年4月より35年に渡って浜松バッハ研究会常任指揮者を務めている。

澤武 紀行（さわぶ のりゆき）テノール



桐朋学園大学を首席で卒業。同大学研究科を修了後、国際ロータリー財団2610地区より国際親善奨学生に選出され、オーストリア・ザルツブルクへ。モーツアルテウム音楽大学で学んだのち、ブルックナー音楽大学オペラ科へ編入し卒業。在学中、ドイツ・ハウゼンベルク音楽祭にてモーツアルト『後宮からの逃走』ペルモンテ役でヨーロッパ・オペラデビュー後、ベルリン国立歌劇場、フォアポンメルン州立劇場など、名門劇場・音楽祭に出演。バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」の福音史家は、「形式を守りながらも祈りに満ちた劇的な表現で聴衆を深く揺さぶる、次代の新しい福音史家」と称賛されている。NHK富山・北日本放送、東京MX『5時に夢中!』などに出演。作曲家としても活動し、大伴家持の詩に作曲した作品を、上皇皇后両陛下御前演奏で自ら歌唱。射水市立新湊中学校、放生津小学校などの校歌を作曲。現在、富山銀行オフィシャルパートナー、KNBラジオ「夢見るクラシック」ナビゲーター、「とれたてワイド朝生木曜日」「フライデースペシャル～澤武紀行どのこの狄イダ!～」のパーソナリティー。水見第九総監督、水見市国際芸術文化交流大使、富山県警交通安全うたごえ大使、いみずPR大使。とやま賞、射水市市政功労賞、北日本新聞芸術選奨などを受賞。

加藤 宏隆（かとう ひろたか）バス



袋井市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。ジョンズ・ホップキンス大学ピードィ音楽院修士課程、及びインディアナ大学ジェイコブズ音楽院ディプロマ課程修了。帰国後は東京二期会や日生劇場などのオペラに多数出演。東京・春・音楽祭ではソリストとしてリックカルド・ムーティ氏と共に演。2023年12月読売日本交響楽団「第九」ではバスのソロを務めた。またバッハ・コレギュム・ジャパン声楽メンバーとして国内外の演奏会への参加等、宗教音楽の分野での活躍も目立つ。二期会会員。

初鹿野 剛（はつかの たけし）バス



御殿場市出身。清水南高芸術科を経て、東京芸術大学、カールスルーエ音楽大学から修士号を授与される。文化庁派遣芸術家在外研修員。コンサートにおける交響曲・管弦楽曲・宗教曲の独唱者だけでなく、オペラの分野においてもライススペルク等のドイツ主要音楽祭、日本では、新国立劇場・日生劇場・兵庫PAC・東京二期会等の各プロダクションで活躍。日本音楽コンクール入選、「ヴァーグナーの声」国際声楽コンクール入選、五島記念文化賞オペラ新人賞等受賞多数。第1回浜響ソリスト・オーディションに合格、浜松交響楽団と共に演。2014年に愛知県立芸術大学に教員として赴任。二期会会員、日本演奏連盟会員。浜松バッハ研究会とはドイツ演奏旅行以降、度々共演。

内山 美穂（うちやま みほ）オルガン



広島エリザベト音楽大学パイプオルガンコース修士課程修了。ベルギー王立音楽院プリュッセル校およびオランダ王立音楽院マーストリヒト校ブルミエブリ取得後卒業。ベルギーを代表する作曲家兼オルガニストのF・ペータース氏に師事。1984年ゲント国際オルガンコンクール最高位受賞。1992~1997年イタリアミラノ近郊アレーゼのMaria aiuto dei cristiani教会のオルガニストを務める。日本オルガニスト協会会員。カトリック鷺の宮教会オルガニスト。浜松聖星高等学校宗教科非常勤講師。

浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル

バッハ生誕300周年の1985年に浜松地域のバッハ愛好家によって創立された合唱団と管弦楽団であり、姉妹団体・豊橋バッハアンサンブル(1994年創立)と共に「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ミサ曲口短調」などの大作や「クリスマス・オラトリオ」「カンタータ」「モテット」などを取り上げて演奏してきた。1990年以来バッハ演奏の権威である新国立劇場の三澤洋史氏を常任指揮者として招いている。2000~2001年にはバッハ縁の地を巡るドイツ演奏旅行を実施。バッハの聖地であるライプツィヒの聖トーマス教会やヘンデルが少年時代に学んだハレのマルクト教会などで演奏し、大好評を得た。

飯田 みち代（いいだ みちよ）ソプラノ



ソプラノ歌手。日本国内では、日生劇場と東京二期会周年記念オペラ「ルル」「メデア」「アイナダマール」、びわ湖ホール周年記念オペラ「死の都」、サントリーホール周年記念オペラ「パン屋大襲撃」など日本を代表する劇場の記念公演の数々に主演し、高い評価を受け公演の大賞受賞に寄与。批評家たちにより、「音楽の友」誌上で世界のディーヴァベスト100に選ばれ、「陰陽自在な発声で多層の女性像を魅力的に描き出す驚くべき才能」(音楽現代誌)と絶賛された。海外でも演奏の評価が高く、イタリア、アメリカ、ドイツ、オーストリア、フランス、ハンガリーに何度もソリストとして招聘されている。京都大学卒業、愛知県芸術選奨賞受賞者。春日井市広報大使。

三輪 陽子（みわ ようこ）メゾソプラノ



愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリヤに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。宗教曲ではヘンデル「メサイア」、モーツアルト「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「レクイエム」、バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、ヴェルディ「レクイエム」などアルトソロとして出演。クロアチア、ウィーン、ベルリン、チェコにて海外公演に出演。二期会会員。

谷口 洋介（たにぐち ようすけ）テノール



国立音楽大学声楽科卒業。1998年以来、バッハ・コレギュム・ジャパンのメンバーとして国内外の数多くの演奏会や録音などに参加し、現在もソリストおよびコーラス主要メンバーとして活躍中。2002年、ソプラノ歌手の鈴木美登里を主宰として声楽アンサンブル「ラ・フォンテンヴェルデ」を結成。モンテウェルディのマドリガーレ全曲など発売されたCDは常に高い評価を得ている。バッハの諸受難曲におけるエヴァンゲリストや、ヘンデルのメサイアなど宗教曲ソリストとして安定した歌唱に定評がある。また、ワーグナーの歌劇『ローエングリン』でタイトルロールをつとめるなど、オペラでの活躍も注目されている。

川原 千真（かわはら ちま）コンサートマスター



東京芸術大学および同大学院修了。読売新人演奏会出演。「古典四重奏団」として村松賞、文化庁芸術祭大賞、同優秀賞、JXTG音楽賞(旧モービル賞)奨励賞、ミュージック・ベンクループ音楽賞、ショスタコヴィチ全集CDにてレコードアカデミー賞と文化庁芸術祭大賞のW賞受賞。「音楽三昧」としてサライ賞CD・DVD部門賞受賞。バロックヴァイオリンによるJ.S.バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲CDリリース(「レコード芸術」誌特選盤)。ジャン・マリ・ルクレール・ヴァイオリンソナタ49曲全曲演奏会を26年2月に完遂。

羽川 恵子（はがわ けいこ）ヴィオラ・ダ・ガンバ



東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。同大学大学院修士課程音楽研究科チェロ専攻修了。藝大室内楽定期演奏会に出演。原村室内楽セミナーに於いて緑の風音樂賞優秀賞受賞。チェロを故三木敏之、刈田雅治の各氏に師事。ヴィオラ・ダ・ガンバを櫻井茂氏に師事。市瀬礼子、酒井淳、M.マルティノ、M.リニョルの各氏のマスタークラスを受講する。J.S.バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、C.モンテウェルディ「聖母マリアのタベの祈り」に出演。PRISM consort of violins、森川麻子、波多野睦美、福島康晴、前田啓光の各氏と共に演じている。

浜松バッハ研究会管弦楽団メンバー

ヴァイオリン-I：川原千真 木内希子 長谷川悠 前澤陽 松嶋朗生
ヴァイオリン-II：小沢規子 田邑利香 東儀温 芹田清香
ヴィオラ：篠田侑香里 小林勝 松嶋多恵
チェロ：神農清志 立川訓子
コントラバス：田邑元一
ヴィオラ・ダ・ガンバ：羽川恵子
フルート：木村伊都子 統真樹 オーボエ：大橋弥生 漆畠孝亮
ファゴット：曾布川利貞 オルガン：内山美穂